

向井 誠(むかい まこと)先生のプロフィール

●勤務先 ムカイ・クリニック

●経歴 大阪市立大学医学部卒業。同大学医学部
神経精神医学教室にて精神医学を研修。

同大学大学院医学研究科においてパッチクランプ法を用いた
イオンチャネルの研究に従事し、学位(医学博士)取得。

その後、蔡曉明氏(元・中国江西中医学院中医師・講師、
現・兵庫医科大学東洋医学入門非常勤講師)に東洋医学を師事し、
丹比荘病院などで精神科臨床に従事する。2003年、現勤務先を開院。

2006年より大阪市立大学医学研究科卒後医学教育学にて、
非常勤講師として、漢方医学の教育に携わっている。

●専門 精神医学



◆先生が初めて漢方と出会われたのはいつ頃ですか

私は、精神科医になって20数年になりますが、医師になってからの10年間は、専ら
向精神薬による治療を行っていました。

私自身、高校生～大学生の頃から鼻炎などでよく漢方を飲んでいたり、
漢方薬を患者様に処方することに全く違和感はありませんでしたが、
漢方薬を出す対象は向精神薬の副作用などに限られていたと思います。

この頃、今なお恩師である蔡曉明氏に出会う機会があり、得られるものがありました。
それ以来、今日に至るまで、蔡先生に師事して漢方を学び、「精神疾患へ如何に漢方を
応用するのか？精神疾患の中のどのような疾患や病期に漢方を応用すべきか？」
などを勉強してきました。

◆先生の御専門で漢方はどのような効果を発揮していますか

私は精神科医の立場から、うつ病圏の疾患(慢性のうつ状態)、
パニック障害や身体表現性障害などの神経症といった精神疾患に対して漢方治療を行っています。

これらについては『精神科領域の中医学①～④～』、『うつ病圏の疾患に対する温胆湯の応用』
『精神疾患に対する温胆湯の応用』中医臨床、『精神科領域の漢方治療』phil漢方、
『メンタルヘルスにおける漢方治療①～⑫代』、『愁訴の多い患者さん精神科領域の漢方を語る』を
薬事日報などにまとめておりますので、ご参照いただければ光栄です。



◆ 普段の治療で漢方薬と西洋薬との割合はどれくらいですか

7割は漢方薬、3割は西洋薬の割合です。
漢方薬でもとくに湯液治療の割合が多いと思います。

◆ 10年後の漢方医療はどうなっている(またはどうあってほしい)とお考えですか

漢方の健康保険の適応が維持されることも重要な課題ですし、
漢方生薬が安定供給され得るとことが重要です。

地球の温暖化が叫ばれていますが、漢方生薬の栽培は
自然の状態に大いに影響されると考えます。

◆ 先生ご自身漢方を飲んで効果を実感なされたことがありますか

最近風邪でお腹をこわした時に、藿香正気散を服用して著効しています。
このような感じで、漢方薬を飲むことは日常生活の中の一部になっています。

◆ これから漢方医を志す方に一言お願いします

西洋医学を学ばれた知識と経験を基礎とされ、その上で漢方医学を学ばれ活用されれば、
それは最先端の医学、最良の医療と呼べるのではないかと思います。

漢方医学は、現代医学で治りにくい疾患に対して適応となることが多いと思います。
未知なる分野に果敢に挑戦されますことを祈念いたしております。

◆ 座右の銘、好きな言葉などありましたら教えてください

好きな言葉は「一期一会」です。

◆ その他何かご意見がありましたら、お願いいたします

漢方医療について、日本臨床漢方医会の果たされる役割は
大変大きいものと考えます。貴会の益々のご発展を願う次第であります。



注意: 先生へのインタビューは、当会が2010年7月に行った内容です。